



C コマンド

この章では、C で始まる Cisco NX-OS イーサネット コマンドおよび仮想イーサネット コマンドについて説明します。

capability (仮想イーサネット インターフェイス)

仮想イーサネット インターフェイスのプロファイリング機能を設定するには、**capability** コマンドを使用します。インターフェイスのプロファイリング機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

profile capability iscsi-multipath

no profile capability iscsi-multipath

構文の説明

iscsi-multipath	iSCSI マルチパス プロファイルを設定します。
------------------------	---------------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

仮想イーサネット インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、特定の仮想イーサネット インターフェイスのプロファイリング機能を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vethernet 1
switch(config-if)# capability iscsi-multipath
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface vethernet	仮想イーサネット インターフェイスを設定します。
show interface vethernet	指定した仮想イーサネット インターフェイス、属性、およびステータスを表示します。
show running-config interface	インターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。

carrier-delay

シリアル インターフェイスのキャリア遅延を設定するには、**carrier-delay** コマンドを使用します。デフォルトのキャリア遅延値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

carrier-delay {*delay-seconds* | **msec** *milliseconds*}

no carrier-delay

構文の説明

<i>delay-seconds</i>	システムでステートが変更されるまでの待機時間を秒数で指定します。0 ~ 60 の範囲で整数を入力します。
msec	遅延時間をミリ秒で指定します。
<i>milliseconds</i>	システムでステートが変更されるまでの待機時間をミリ秒で指定します。0 ~ 1000 の範囲で整数を入力します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

VLAN インターフェイスでこのコマンドを使用できます。

リンクがダウンしても、キャリア遅延タイマーが切れる前に再度アップ ステートに戻った場合は、ダウンステートは実質的にフィルタで除外され、スイッチ上の他のソフトウェアは発生したリンクダウン イベントを認識しません。このため、キャリア遅延タイマーの時間が長くなるほど、検出されるリンクアップ/リンクダウン イベントは少なくなります。キャリア遅延時間を 0 に設定すると、すべてのリンクアップ/リンクダウン イベントが検出されるようになります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、キャリア遅延を 10 秒に変更する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vlan 5
switch(config-if)# carrier-delay 10
switch(config-if)#
```

次に、デフォルトのキャリア遅延値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vlan 5
switch(config-if)# no carrier-delay
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show running-config interface</code>	インターフェイスの実行コンフィギュレーション情報を表示します。

cdp

Cisco Discovery Protocol (CDP) をイネーブルにし、CDP 属性を設定するには、**cdp** コマンドを使用します。CDP をディセーブルにするか、または CDP 属性をリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
cdp {advertise {v1 | v2} | enable | format device-id {mac-address | serial-number | system-name} | holdtime seconds | timer seconds}
```

```
no cdp {advertise | enable | format device-id {mac-address | serial-number | system-name} | holdtime seconds | timer seconds}
```

構文の説明

advertise { v1 v2 }	使用するバージョンを設定して、CDP アドバタイズメントを送信します。バージョン 2 がデフォルト ステートです。
enable	すべてのイーサネット インターフェイスに対し、CDP をイネーブルにします。
format device-id	CDP デバイス ID の形式を設定します。
mac-address	MAC アドレスを CDP デバイス ID として使用します。
serial-number	シリアル番号を CDP デバイス ID として使用します。
system-name	システム名を CDP デバイス ID として使用します。このシステム名は、完全修飾ドメイン名として表記できます。これはデフォルトです。
holdtime <i>seconds</i>	CDP 情報が、レシーバで廃棄されるまでに保持される時間を指定します。有効な範囲は 10 ~ 255 秒です。デフォルトは 180 秒です。
timer <i>seconds</i>	CDP アップデートの送信頻度を秒単位で設定します。有効な範囲は 5 ~ 254 秒です。デフォルトは 60 秒です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、すべてのイーサネット インターフェイス上で CDP をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cdp enable
```

次に、MAC アドレスを CDP デバイス ID として設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cdp format device-id mac-address
```

次に、すべてのイーサネット インターフェイスで CDP をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
```

■ cdp

```
switch(config)# no cdp enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp	Cisco Discovery Protocol (CDP) 情報を表示します。

cdp enable

インターフェイスで Cisco Discovery Protocol (CDP) をイネーブルにするには、**cdp enable** コマンドを使用します。インターフェイスで CDP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp enable

no cdp enable

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード
仮想イーサネット インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
5.1(3)N1(1)	仮想イーサネット (vEth) インターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、次のインターフェイスで使用できます。

- イーサネット インターフェイス
- 管理インターフェイス
- 仮想イーサネット インターフェイス

例

次に、イーサネット インターフェイス上で CDP をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# cdp enable
```

次に、特定の仮想イーサネット インターフェイス上で CDP をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vethernet 1
switch(config-if)# cdp enable
```

次に、特定の仮想イーサネット インターフェイス上で CDP をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vethernet 1
switch(config-if)# no cdp enable
```

■ cdp enable

関連コマンド

コマンド	説明
show cdp	Cisco Discovery Protocol (CDP) 情報を表示します。
show interface	インターフェイス コンフィギュレーション情報を表示します。

channel-group (イーサネット)

物理インターフェイスを EtherChannel に割り当て、設定するには、**channel-group** コマンドを使用します。インターフェイスからチャンネル グループ設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

channel-group *number* [**force**] [**mode** {**active** | **on** | **passive**}]

no channel-group [*number*]

構文の説明

number	チャンネル グループの番号です。 <i>number</i> の範囲は 1 ~ 4096 です。EtherChannel がまだ存在していない場合は、このチャンネル グループに対応する EtherChannel が Cisco NX-OS によって作成されます。
force	(任意) LAN ポートをチャンネル グループに強制的に追加することを指定します。
mode	(任意) インターフェイスの EtherChannel モードを指定します。
active	このコマンドを指定すると、ユーザが Link Aggregation Control Protocol (LACP) をイネーブルにしたときに、特定のインターフェイスの LACP がイネーブルになります。インターフェイスはアクティブなネゴシエーション状態になります。この状態では、ポートは LACP パケットを送信して他のポートとネゴシエーションを開始します。
on	デフォルトのチャンネル モードです。LACP を実行していないすべての EtherChannel が、このモードのままになることを指定します。LACP をイネーブルにする前に、チャンネル モードを active または passive に変更しようとする、スイッチはエラー メッセージを返します。 feature lacp コマンドで LACP をグローバルにイネーブルにしてから、チャンネル モードを active または passive に設定することにより、各チャンネルの LACP をイネーブルにします。このモードのインターフェイスでは、LACP パケットの開始も応答も行われません。LACP は、 on ステートのインターフェイスとネゴシエートする場合、LACP パケットを受信しないため、そのインターフェイスと個別のリンクを形成します。そのため、チャンネル グループには参加しません。 デフォルトモードは on です。
passive	このコマンドを指定すると、ユーザが LACP をイネーブルにしたときに、LACP デバイスが検出された場合にだけ LACP がイネーブルになります。インターフェイスはパッシブなネゴシエーション状態になります。この状態では、ポートは受信した LACP パケットに応答しますが、LACP ネゴシエーションを開始しません。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
5.0(2)N2(1)	force キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

操作中のインターフェイスが含まれるチャンネル グループを作成し、特定のインターフェイスをそのチャンネル グループに追加したりそのチャンネル グループから削除したりするには、このコマンドを使用します。また、あるチャンネル グループから別のチャンネル グループにポートを移動する場合も、このコマンドを使用します。ポートの移動先となるチャンネル グループを入力すると、スイッチにより指定されたポートが自動的に現在のチャンネル グループから削除され、指定のチャンネル グループに追加されます。

指定したチャンネル グループにインターフェイスを強制的に追加するには、**force** キーワードを使用します。

feature lacp コマンドで LACP をグローバルにイネーブルにしてから、チャンネル モードを **active** または **passive** に設定することにより、各チャンネルの LACP をイネーブルにします。**on** チャンネル モードの EtherChannel は純粋な EtherChannel であり、最大 8 つのポートを集約できます。この EtherChannel では LACP は実行されません。

既存の EtherChannel またはそのインターフェイス（その EtherChannel で LACP が実行されていない場合）のモードは変更できません。したがって、チャンネル モードは **on** のまま保持されます。モードを変更しようとする、システムからエラー メッセージが返されます。

EtherChannel から物理インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。EtherChannel から最後の物理インターフェイスを削除しても、その EtherChannel は削除されません。EtherChannel を完全に削除するには、**interface port-channel** コマンドの **no** 形式を使用します。

互換性チェックの対象となる動作属性は次のとおりです。

- ポート モード
- アクセス VLAN
- トランク Native VLAN
- タグ付きまたはタグなし
- 許可 VLAN リスト
- スイッチド ポート アナライザ (SPAN) (SPAN 送信元ポートおよび宛先ポートは不可)
- ストーム制御

Cisco NX-OS で使用される互換性チェックの完全なリストを表示するには、**show port-channel compatibility-parameters** コマンドを使用します。

スタティック EtherChannel（設定された集約プロトコルがないもの）に追加できるのは、チャンネル モードが **on** に設定されたインターフェイスだけです。LACP を実行している EtherChannel に追加できるのは、チャンネル モードが **active** または **passive** に設定されたインターフェイスだけです。

これらの属性は個別のメンバ ポートに設定できます。属性に互換性がないメンバ ポートを設定した場合、Cisco NX-OS により EtherChannel 内のそのポートは一時停止されます。

インターフェイスが EtherChannel に参加すると、次のようなインターフェイスの個々のパラメータの一部は、EtherChannel の値で上書きされます。

- MAC アドレス
- スパニング ツリー プロトコル (STP)
- サービス ポリシー

- Quality of Service (QoS)
- アクセス コントロール リスト (ACL)

インターフェイスが EtherChannel に参加または脱退しても、次のようなインターフェイス パラメータは影響を受けません。

- 説明
- Cisco Discovery Protocol (CDP)
- LACP ポート プライオリティ
- デバウンス
- レート モード
- シャットダウン
- SNMP トラップ

EtherChannel インターフェイスにインターフェイスが設定されていて、EtherChannel からメンバ ポートが削除されている場合、EtherChannel インターフェイスの設定はメンバ ポートに伝播されません。

EtherChannel インターフェイスに対し、互換性のあるパラメータに加えた設定変更は、その EtherChannel と同じチャンネル グループ内のすべてのインターフェイスに伝播されます (たとえば、設定変更は、EtherChannel には含まれなくてもチャンネル グループには含まれる物理インターフェイスにも伝播されます)。

例

次に、インターフェイスを active モードで LACP チャンネル グループ 5 に追加する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# channel-group 5 mode active
switch(config-if)#
```

次に、強制的にチャンネル グループ 5 にインターフェイスを追加する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# channel-group 5 force
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface port-channel	指定された EtherChannel インターフェイスのトラフィックに関する情報を表示します。
show lacp	LACP 情報を表示します。
show port-channel summary	EtherChannel に関する情報を表示します。

clear lacp counters

Link Aggregation Control Protocol (LACP) のカウンタをクリアするには、**clear lacp counters** コマンドを使用します。

clear lacp counters [**interface port-channel** *channel-num*]

構文の説明

interface	(任意) 特定のインターフェイスの LACP カウンタをクリアします。
port-channel <i>channel-num</i>	(任意) ポート チャネル インターフェイスを指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4096 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、すべての LACP カウンタをクリアする例を示します。

```
switch# clear lacp counters
```

次に、ポート チャネルで LACP をクリアする例を示します。

```
switch# clear lacp counters interface port-channel 100
```

関連コマンド

コマンド	説明
show lacp	LACP 情報を表示します。

clear mac access-list counters

アクセス リストから統計情報をクリアするには、**clear mac access-list counters** コマンドを使用します。

clear mac access-list counters [*name*]

構文の説明

<i>name</i>	(任意) クリアする特定のカウンタの名前。名前は、最大 64 文字まで指定できます。
-------------	--

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、アクセス リストから統計情報をクリアする例を示します。

```
switch# clear mac access-list counters
```

関連コマンド

コマンド	説明
show mac access-lists	MAC アドレス テーブルに関する情報を表示します。

clear mac address-table dynamic

MAC アドレス テーブルからダイナミック アドレス エントリをクリアするには、**clear mac address-table dynamic** コマンドを使用します。

```
clear mac address-table dynamic [[address mac-addr] | [interface {ethernet slot/port |
port-channel number}]] [vlan vlan-id]
```

構文の説明

address mac-addr	(任意) テーブルから MAC アドレスを削除するように指定します。EEEE.EEEE.EEEE の形式を使用します。
interface	(任意) テーブルから MAC アドレスを削除する必要があるインターフェイスを指定します。タイプはイーサネットまたは EtherChannel のいずれかです。
ethernet slot/port	(任意) イーサネット インターフェイス、およびスロット番号とポート番号を指定します。スロット番号は 1 ~ 255、ポート番号は 1 ~ 128 です。
port-channel number	(任意) テーブルから MAC アドレスを削除する必要がある EtherChannel を指定します。EtherChannel 番号を使用します。number の範囲は 1 ~ 4096 です。
vlan vlan-id	(任意) テーブルから MAC アドレスを削除する必要がある VLAN を指定します。有効な範囲は 1 ~ 3967 および 4049 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.2(1)N1(1)	コマンド構文が clear mac address-table dynamic に変更されました。

使用上のガイドライン

テーブルからすべてのダイナミック エントリを削除するには、引数を指定せずに、**clear mac address-table dynamic** コマンドを使用します。

テーブルからスタティック MAC アドレスをクリアするには、**no mac address-table static** コマンドを使用します。

オプションを指定しないで **clear mac address-table dynamic** コマンドを入力すると、すべてのダイナミック アドレスが削除されます。アドレスを指定してインターフェイスを指定しないと、すべてのインターフェイスからアドレスが削除されます。インターフェイスを指定してアドレスを指定しないと、スイッチによって指定のインターフェイス上のすべてのアドレスが削除されます。

例

次に、MAC アドレス テーブルからすべてのダイナミック エントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear mac address-table dynamic
```

次に、VLAN 2 の MAC アドレス テーブルからすべてのダイナミック エントリをクリアする例を示します。

```
switch# clear mac address-table dynamic vlan 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
show mac address-table	MAC アドレス テーブルに関する情報を表示します。

clear port-security dynamic

ポート セキュリティ情報をクリアするには、**clear port-security dynamic** コマンドを使用します。

```
clear port-security dynamic {address MAC-addr vlan vlan-ID | interface {ethernet
slot/port [vlan vlan-ID] | port-channel channel-num [vlan vlan-ID]}}
```

構文の説明

address <i>MAC-addr</i>	動的にセキュアな MAC アドレス情報をすべてクリアします。MAC アドレスの形式として <i>E.E.E</i> を使用できます。
vlan <i>vlan-ID</i>	動的にセキュアな VLAN 情報をすべてクリアします。有効な範囲は 1 ~ 4094 です。
interface	ポート上の動的にセキュアなアドレスをすべてクリアします。
ethernet <i>slot/port</i>	動的にセキュアなアドレスをイーサネット ポートからすべてクリアします。スロット番号は 1 ~ 255、ポート番号は 1 ~ 128 です。
port-channel <i>channel-num</i>	動的にセキュアなアドレスを EtherChannel からすべてクリアします。指定できる範囲は 1 ~ 4096 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、動的にセキュアな MAC アドレス情報をクリアする例を示します。

```
switch# clear port-security dynamic address 0050.3e8d.6400 vlan 1
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show port-security	ポート セキュリティのコンフィギュレーション情報を表示します。
switchport port-security	ポート セキュリティを確立するようにスイッチポート パラメータを設定します。

clear spanning-tree counters

Spanning Tree Protocol (STP; スパニング ツリー プロトコル) のカウンタをクリアするには、**clear spanning-tree counters** コマンドを使用します。

```
clear spanning-tree counters [interface {ethernet slot/port | port-channel channel}]
                             [vlan vlan-id]
```

構文の説明

interface	(任意) インターフェイス タイプを指定します。
ethernet slot/port	イーサネット インターフェイスのスロット番号とポート番号を指定します。スロット番号は 1 ~ 255、ポート番号は 1 ~ 128 です。
port-channel channel	EtherChannel 番号を指定します。番号の範囲は 1 ~ 4096 です。
vlan vlan-id	(任意) VLAN を指定します。有効な範囲は 1 ~ 3967 および 4049 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

スイッチ全体、VLAN 単位、またはインターフェイス単位ですべての STP カウンタをクリアできません。

例

次に、VLAN 5 の STP カウンタをクリアする例を示します。

```
switch# clear spanning-tree counters vlan 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
show spanning-tree	スパニング ツリー ステートに関する情報を表示します。

clear spanning-tree detected-protocol

プロトコル移行を再開するには、**clear spanning-tree detected-protocol** コマンドを使用します。引数がない場合、コマンドはスイッチのすべてのポートに適用されます。

clear spanning-tree detected-protocol [**interface** {**ethernet** *slot/port* | **port-channel** *channel*}]

構文の説明

interface	(任意) インターフェイス タイプを指定します。
ethernet <i>slot/port</i>	イーサネット インターフェイス、およびスロット番号とポート番号を指定します。スロット番号は 1 ~ 255、ポート番号は 1 ~ 128 です。
port-channel <i>channel</i>	EtherChannel 番号を指定します。番号の範囲は 1 ~ 4096 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Rapid per VLAN Spanning Tree Plus (Rapid PVST+) および Multiple Spanning Tree (MST; 多重パニング ツリー) には、別バージョンの IEEE スパニング ツリーや別の領域との適切な対話が可能になる組み込みの互換性メカニズムがあります。たとえば、Rapid PVST+ を実行しているスイッチは、ポートの 1 つがレガシー デバイスに接続されている場合には、そのポートで 802.1D Bridge Protocol Data Unit (BPDU; ブリッジ プロトコル データ ユニット) を送信できます。MST スイッチは、レガシー BPDU または別の領域に関連する MST BPDU を受信すると、ポートが領域の境界にあることを検出できます。

これらのメカニズムにより、常に最も効率的なモードに戻れるわけではありません。たとえば、レガシー 802.1D ブリッジに指定された Rapid PVST+ スイッチは、レガシー ブリッジがリンクから取り外された後も 802.1D モードにとどまります。同様に、MST ポートは、接続先のブリッジが同じ領域に参加している場合には自身を境界ポートと見なします。

ポートがネイバーと再ネゴシエーションするように強制するには、**clear spanning-tree detected-protocol** コマンドを使用します。

例

次に、特定のインターフェイスでプロトコル移行を再開する例を示します。

```
switch# clear spanning-tree detected-protocol interface ethernet 1/4
```

関連コマンド

コマンド	説明
show spanning-tree	スパニング ツリー ステートに関する情報を表示します。

clear vtp counters

VLAN トランッキング プロトコル (VTP) カウンタをクリアするには、**clear vtp counters** コマンドを使用します。

clear vtp counters

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、VTP 要求、VTP アドバタイズメント、コンフィギュレーション リビジョンなどの VTP 統計情報をクリアするために使用します。

例

次の例では、VTP カウンタをクリアする方法を示します。

```
switch# clear vtp counters
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show vtp counters	VTP カウンタを表示します。
show vtp status	VTP 情報を表示します。

clock protocol

プロトコルにクロックの同期プロトコルを設定するには、**clock protocol** コマンドを使用します。クロックのプロトコルを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock protocol {none | ntp}

no clock protocol {none | ntp}

構文の説明

none	手動でクロックを設定できることを指定します。
ntp	クロックをネットワーク タイム プロトコル (NTP) に設定することを指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、クロックの同期プロトコルを NTP に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# clock protocol ntp
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config	実行システム コンフィギュレーション情報を表示します。

connect

vCenter Server との接続を開始するには、**connect** コマンドを使用します。vCenter Server との接続を切断するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

connect

no connect

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

vCenter Server に接続されていません。

コマンド モード

SVS 接続コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

一度にアクティブにできる接続は 1 つだけです。
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、vCenter Server に接続する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# svcs connection SVSConn
switch(config-svs-conn)# protocol vmware-vim
switch(config-svs-conn)# remote hostname vcMain
switch(config-svs-conn)# vmware dvs datacenter-name DemoDC
switch(config-svs-conn)# connect
switch(config-svs-conn)#
```

次に、vCenter Server との接続を切断する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# svcs connection SVSConn
switch(config-svs-conn)# no connect
switch(config-svs-conn)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show svcs connections	SVS 接続の情報を表示します。
svcs connection	SVS 接続をイネーブルにします。

